

120

医学中央雑誌
創刊120周年

記念講演

コロナの時代に見つめなおす

江戸の
くらしと
感染症『医学中央雑誌』は、2023年3月、
創刊120周年を迎えました。これを
記念し、奈良女子大学の鈴木則子教
授を講師としてお迎えし講演会を開
催します。江戸時代の人々が暮らしの中でど
のように感染症の危機と向き合っ
たのか、そしてコロナ禍を経験し
てきた私たちはそれから何を学ぶこ
とができるのか、豊富な一次史料を
読み解きながらご講演いただきます。10/27 (金)
14:00~15:30zoom
ウェビナー聴講費
無料

事前申込



講師

鈴木 則子 氏

奈良女子大学 研究院 生活環境科学系 教授

講師より

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行が始まって、すでに3年
半。感染症がいかに私たちの生活に大きな打撃を与えるかを実感させ
られました。では現在、私たちの感染症への対峙の仕方は、政治は、医
療体制は、コロナ禍を経験する前とどう変わったのでしょうか？過酷な疫
病経験を経ることで、感染症と共生可能な社会への展望はおのずから
見えてくるものなのでしょうか？江戸時代の人々の生活は、生命にかかわるような感染症の脅威に恒
常的にさらされていました。梅毒・結核・インフルエンザ・コレラ・麻疹・
疱瘡…。医療の進歩や都市生活と商業主義の展開、出版メディアの発達
など、歴史的スパンで見ると、江戸時代の生活環境の変化が人々と
感染症との関わり方を変えていったことがうかがえます。そして今回
の話の中では、変わっていく生活環境に即した江戸のリスクマネジメント
のありようにも注目したいと思います。静岡県出身、総合研究大学院大学国際日本研究専攻博士後期課程学位取得
修了。現在、奈良女子大学生活環境学部文化情報学科生活文化学コース教
授。専門は日本近世史、医療社会史、ジェンダー史

主要編著書

『日本梅毒史の研究—医療・社会・国家—』(共編著、思文閣出版、2005年)
『江戸の流行り病—麻疹騒動はなぜ起こったのか—』(吉川弘文館、2012年)
『歴史における周縁と共生—女性・穢れ・衛生—』(編著、思文閣出版、2014年)
『近世感染症の生活史—医療・情報・ジェンダー—』(吉川弘文館、2022年)

2023年刊行予定

『「ひと」とはだれか?—身体・セクシュアリティ・暴力—』(『ひと』から問うジェ
ンダーの世界史)第1巻、共編著、大阪大学出版会)

お申込み

右記のQRコード(二次元バーコード)または下記URL
から当会ページにアクセスし、お一人様分ずつお申込
みください。<https://www.jamas.or.jp/news/news180.html>

申込締切

2023年10月26日(木) 10:00 まで

10月26日午後から参加用URLをお送りします。
お申込みの際はメールアドレスをお間違えないようご入力ください。

講演概要

講 師：鈴木 則子 氏
日 時：2023年10月27日(金) 14:00~15:30
開催形式：Zoomウェビナー
聴 講 費：無料(要事前申込)
主 催：NPO医学中央雑誌刊行会

動画配信

後日、当会YouTubeチャンネルでアーカイブを
公開予定です。※都合により一部公開できない
場合もありますので予めご了承ください。